

農業改良普及事業について

現下のわが国の農業および農村を取り巻く情勢はきわめて厳しく、その健全な発達を図るためには土地利用型農業の体質強化を目指した構造政策を、緊急にかつ徹底して進めることが重要である。

このためには、農業経営の規模拡大、農用地の有効利用等を図るため、具体的な活動を地域の実情に即して組織的に展開する必要がある。農業改良普及所は、新技術の導入による生産コストの低減、土地利用の合理化等を、個々の農家と地域全体の営農との調和ある発展を図りつつ推進する必要がある。このような観点から、地域および個別農家を対象として、高度な営農診断を科学的かつ迅速に実施することである。診断をするにあたっては、コンピュータによる地区内の農家、営農情報等の蓄積、検索、高度な営農診断予測手法の適用を行ない、地域農業の方向づけの指導、援助をなすべきである。農業改良普及所は、もう一度、地域農業の実体を十分に調査して、地域の農民と一体となって地域農業の振興を図ることが、農業改良普及事業に課せられた役割である。

しかし、これらのことを実施するのにあたって最も重要なことは、中核になる農民の育成である。普及事業が38年間、考える農民の育成に全力を注いできたことこそ、農政のなかで重要な事業であり、農政の根幹をなすものである。普及職員は、日本の農業と農民のために、ますます研さんを積み重ね、努力されんことをお願いしたい。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 星 鎭治〕
〔社団法人 全国農業改良普及協会専務理事〕

目 次 (第20巻第6号)

トリアジン系除草剤の研究と利用の 世界的動向……………	2
＜宇都宮大学 竹松哲夫・竹内安智・ 米山弘一＞	
は じ め に……………	2
1. 世界の除草剤使用状況……………	2
2. トリアジン系除草剤の使用状況……………	3
3. 主要作物におけるトリアジン 系除草剤の使用状況……………	4
4. 日本におけるトリアジン系除 草剤使用……………	5
5. トリアジン系除草剤の作用特性……………	7
6. トリアジン系除草剤の作用機構……………	8
7. トリアジン系除草剤に対する 抵抗性雑草の出現……………	10
8. トリアジン系除草剤抵抗性作 物の育成……………	11
9. トリアジン系除草剤の土壤中 の行動……………	11
10. トリアジン系除草剤の今後の展望……………	11
培養細胞からの茎葉分化と表層細胞……………	12
＜名古屋大学 前田英三・中村智恵美＞	
世界の農耕地雑草とその調査研究(12) ——ムラサキ科——……………	16
＜宇都宮大学 竹松哲夫・一前宣正＞	
新除草・調節剤	
・ピラゾキシフェン・プロモチド粒剤……………	31
・ピラゾレート・プロモチド粒剤……………	32